

## 危機意識を高めたいなら、まず「不審者対応訓練」から始めよう！

質の高い学校教育の推進—子供たちの安心・安全の確保—

### ◆ 所属・提案者（◎代表者）

新座市立八石小学校

◎飯塚 隆・小澤 宗和・岩室 智恵子・村上 貴彦

### ねらい

本校は、職員室が2階にあり来校者を確認しにくい状況である。不審者の侵入に対して、全職員が常に危機意識を持ってほしいのだが、そこまで意識を高めることができていなかった。そこで、不審者対応訓練を全職員で行うことにより、職員の危機意識を高め、不審者侵入への取り組みに積極的に取り組めるようにすることをねらった。

### 実践内容

#### ① 教員対象の不審者対応訓練を行う。

警察署の生活安全課の方を指導者にお招きし、不審者対応訓練を行った。施錠されていなかった入り口から1階の教室に児童へ危害を加えることを目的とした不審者が侵入したという設定で訓練を行った。職員はマニュアルに従って行動したが、結果として侵入を受けた教室の担任や児童役の教員が不審者から傷を負わされた。訓練後に参加した職員で話し合い、職員の不審者侵入への危機感が高まった。



#### ② 不審者の校内侵入のルートを断つ

不審者の校内侵入のルートを想定し、その入り口の施錠を徹底することで、侵入ルートを断つことにした。登校後、業間休み後、昼休み後に職員室の職員が施錠を確認する。授業時には担任が責任を持って施錠を確認する。また、1階の各教室から進入されないように教室の入り口の施錠を徹底した。

#### ③ 来航者への声掛け・来後者の名札の着用

職員が来校者に出会ったときには、積極的に声かけを行い、用件の確認や行き先への案内を行ったりすることを徹底した。同時に、PTAにお願いし、保護者が来校した際には、必ず名札を着用してもらうようにした。



#### ④ 不審者対応マニュアルの見直し

実際に行った訓練の際の動きを元に、マニュアルの見直しを行った。不審者が侵入したことを迅速に職員室に、そして、警察に連絡できるように組織的に動けるようにした。

### 実践時期・期間

- ・不審者対応訓練（校内研修として）…平成27年8月（夏季休業中）
- ・ほかの内容については、通年



## 実践の成果や課題

### 【成果】

- 教員一人一人が「不審者の侵入を防ごう」という意識を高め、校舎の入り口の施錠などを確実に行うことができるようになった。
- 教員一人一人が「もし不審者が侵入したときに、どう行動するか」について考えることができた。

### 【課題】

- 不審者役を職員が行った。しかし、訓練の中で本気になると怪我をする可能性があるため、不審者役を誰がやるかが課題。
- 毎年訓練を行うと、慣れのために危機意識を高めることができるかどうか不安。

## セールスポイント

平成13年6月の大阪教育大学付属池田小学校の児童殺傷事件から10年以上が経過し、不審者侵入への危機意識が低くなってきていることが考えられるが、児童の安全を守る立場である教員はもしもの事態に備えて意識を高めていなければならない。そのための提案である。



## 他校で導入するポイント

- 劇的に危機意識が高まる。  
「自分の学校には不審者が侵入しない」と思っている学校ほど、訓練を行った方がよい。訓練を行っていない学校では、職員の不審者侵入への危機意識が劇的に高まる。

## 失敗しないための方策

- ビデオで撮影する。  
訓練中はそれぞれの職員が自分の役を行うのに精一杯なので、全体の動きが見えにくい。そこで、不審者が侵入するところをビデオで撮影し、それを訓練後に全員で見ることで、全体の動きが把握することができ、自分たちの動きがどうだったのかを確認することができる。

## こうすればより高い効果が得られる方策など

- 不審者は予定とは別の教室に侵入する。  
不審者があらかじめ侵入する教室を決めていたが、実際には別の教室に侵入することで事前の打ち合わせ通りではなく、その場で各自が考えて行動するようになることが期待される。



## 外部有識者からのコメント

不審者対応は本番の臨場感を追求すると、子供への悪影響（恐怖によるトラウマなど）が心配されるし、臨場感がないと、そもそも訓練にならない。警察官を呼んでその対応を学ぶというのは、素晴らしい。実際の対応やさすまたの使い方など、難しいことを先生たちは学ばなければならない。またこの訓練での不審者への対応を、どう子供たちに理解させ、実践につなげていくかが次の課題となる。こういう訓練と、子供たちがいる訓練を組み合わせるとよい。